

# 「ほのぼの旭ヶ丘の家」がささえる 地域とつながる住まいの提案

わたしたちは、この夏  
小規模多機能居宅介護事業所「ほのぼの旭ヶ丘の家」をはじめました。  
ここで展開されている日常から、さらに、2020年には、こんなふうになればいいなあ。  
というほのぼの旭ヶ丘の家をとりまくこれからを描いてみました。  
「小規模」がもっと地域とつながるとともに、「小規模」だけでは支えきれないニーズに、地域とつながりながら応えていくアイデアです。



和気あいあいトランプ



戦前民家を改修した懐かしくて新しい楽園



堺市堺区にあります。

大阪府

これからやりたいことのアイディア

## 月貸し家具付き長屋：あけぼの荘

もちろん高齢者対応



※近所に木造の文化住宅がたくさんあります。これらを改修して使います。

たとえば、病院から退院したけど、自宅で一人暮らしにもどるには、すこし不安。バリアフリーの住宅には、改造しづらい。でも、自宅を処分するのはちょっと。そんなとき、月貸し家具付き長屋「あけぼの荘」があれば、便利。「月貸し家具付き」なので、「がんばりすぎない」でいられます。小規模のショートステイでは、味わえない「やっぱり自宅」という感覚がありながらも、旭ヶ丘の家にとっても近いので、いざというとき安心。2階は普通の賃貸住宅ですが、コミュニティのある生活を大事に考える人たちが助け合いながらくらししています。



2階は、一般用  
いろいろな人たちが  
住んでいます


学生ヘルパー  
つよしくんも  
住んでいます。

1階は、車いす  
でも生活できる  
高齢者障害者用

いままでやってきたことで、  
もっとがんばりたいこと

## 地域通貨ほのぼの

地域通貨とは、「できることをして、できないことをしてもらう」システムです。ほのぼのステーションでは年2001年6月23日に地域通貨流通実験説明会を開き、「こんなことお手伝いできますリスト」を作り、様々なサービスが交換されました。「ほのぼの旭ヶ丘の家」に関わるひとは「地域通貨ほのぼのの輪」の会員になって自分ができていることを「こんなことできますリスト」に登録しているので、そのリストからお願いできそうな人を探します。




登場人物2

年齢：22才  
(卒業を控え進路を模索中。  
NPOへの就職という選択肢もあり！)

家族：ペットのリス「ジミー」とあけぼの荘の2階に住む。

性格：強い者には強く、弱い者にはやさしい学生ヘルパー。福祉作業所でボランティアもしている。福祉の世界を変えたいという夢をもつ。友達とバンドを組みライブ活動もしているかっこいい若者。こどもからお年寄りまで大人気。仲間とともに地域に新しい風を持ち込んでくれている。



つよしくん

登場人物3

年齢：50才

軽度の知的障害がある。母親おもいで母親の手足となって過ごしてきたが、母親が「ほのぼの旭ヶ丘の家」へ通うようになり、「つよしくん」がボランティアをしている作業所に通い始めた。もし母親が亡くなれば「あけぼの荘」で暮らしたいと思っている。



家具付き月貸し長屋 あけぼの荘  
※いまは、文化住宅。これを改修。

今は、グラウンドになっていて、地域のお年寄りたちがゲートボールをたのしんでいます。

大仙緑道、このままいけば、大仙公園の日本庭園につきます。

秋になれば、お祭りでだんじりがでる神社

新しく「健康福祉プラザ」が建設予定

2009年現在 いまの状況。やってきたこと。

2020年に向けて、これからの状況。やっていきたいこと

## 2020年 ほのぼの旭ヶ丘の家をとりまく物語

登場人物1

年齢：75才

家族：知的障害のある50才の息子とふたり暮らし

性格：若くして夫に先立たれ、女手ひとつで子どもを育てたしっかり者。ひとに頼る生活をしてこなかった分、要求もはっきりしている。いやなものはいや！とはっきり言えます。

いま：脳梗塞で足がマヒして室内も車いすが必要。「ほのぼの旭ヶ丘の家」に登録して週3回通う。その他の日はヘルパーが訪問して家事のお手伝いしている。

旭(あさひ)さん

得意技：足が不自由だが、手はわり自由に使えるので、ゲームも得意で誰にでも勝負を挑んでいる。歌も得意で、今はヘルパーの「つよしくん」の大ファンでライブの追っかけをしている。

将来の夢：若いときはずいぶんあっちこっちを旅行した。今の望みは生まれ故郷に帰って同窓会に参加したいこと。

■団塊の世代のニーズに応える

旭さんの夢、旅行に行きたいというのは団塊の世代の方にはとても多いニーズです。個人ではついて行ってくれる方を見つけるのはなかなか難しいですが、「地域通貨ほのぼのの輪」のリストからお願いできそうな人を探してみようと思っています。

「ほのぼの旭ヶ丘の家」の近くには日本庭園のある大仙公園があるのでお弁当を持って散歩に行くことはみんなの楽しみになっています。評判のレストランで外食することもあります。旅行は大きな楽しみです。利用者さんの家族にも呼びかけボランティアスタッフも募集して年1回はバスツアーを企画しています。

■地域にひらく、地域と一緒に。

そうそう、みんなお祭りが大好きなのです。毎年「だ

んじり」の音が聞こえてくるとみんなで外へ飛び出します。スタッフも車いすを押しながら「だんじり」を追いかけしています。「旭ヶ丘の家」の向いはグラウンドになっていて朝は地域のお年寄りがゲートボールをしていて、終わったら何人かが連れだって「旭ヶ丘の家」へコーヒを飲みこられます。「地域通貨ほのぼの」が使えるモーニング喫茶がオープンします。中にはそのままボランティアとしてお手伝いして下さるかたもいます。昼食時にはスタッフ、ボランティア、利用者さんと区別がつかません。てきぱきとお皿を運んでいるのが利用者さんだったりします。月1回は地域のひとがだれでも参加できる地域交流の日です。利用者が家族や友人を招くこともあります。季節ごとに得意料理や手作りおやつを持ち寄りパーティーをします。交流会で顔見知りの関係になることで「地域通貨」が

流通しやすくなります。この地域には市営住宅、古い文化住宅、マンション、会社の寮、新しい建て売り住宅に加え、昔からの大きな屋敷が建ち並ぶ一角もあります。いろんなひとが住んでいる街です。年齢も障害のあり方も違う方たちがお互いを思いやりながらそして大声で笑いながら毎日を過ごしています。近くに障害者健康福祉プラザもあり、リハビリのためのプールや最新の設備やサービスが整えられている地域なので身体障害者の方が多く住んでおられます。

■家具付き月貸し長屋

自分の家に住み続けることが難しくなれば家具付き、月貸し長屋「あけぼの荘」があり、自宅はおいたままそこで暮らすことができます。もちろん「小規模」に泊まることもできますが、「あけぼの荘」は狭くても自

分の家だという安心感があります。家族がいる休日やお正月は自宅に帰ってすごすこともできます。働いている家族も留守宅にヘルパーさんに台所を使われることに抵抗があるので、「離れ」代わりに使えるこんな住宅のニーズがあります。高齢社会ではコミュニティのある生活が必要です。ペットを飼いたいけれど自分で世話をできない人がお隣のワンちゃんをかわいがっていたり、母子家庭の赤ちゃんをお年寄りがちょっとの間、みてあげたりしています。「あけぼの荘」は福祉関係の若者にも人気です。実習に行かなくても生きた勉強ができるし、ヘルパーとしてアルバイトもできます。「小規模」としても優秀な学生と一緒に活動することでいつもの新しいアイデアや新風を吹き込んでくれるし、そんな若者が将来のNPOの担い手となってくれれば街も活気づくでしょう。